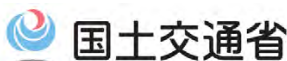


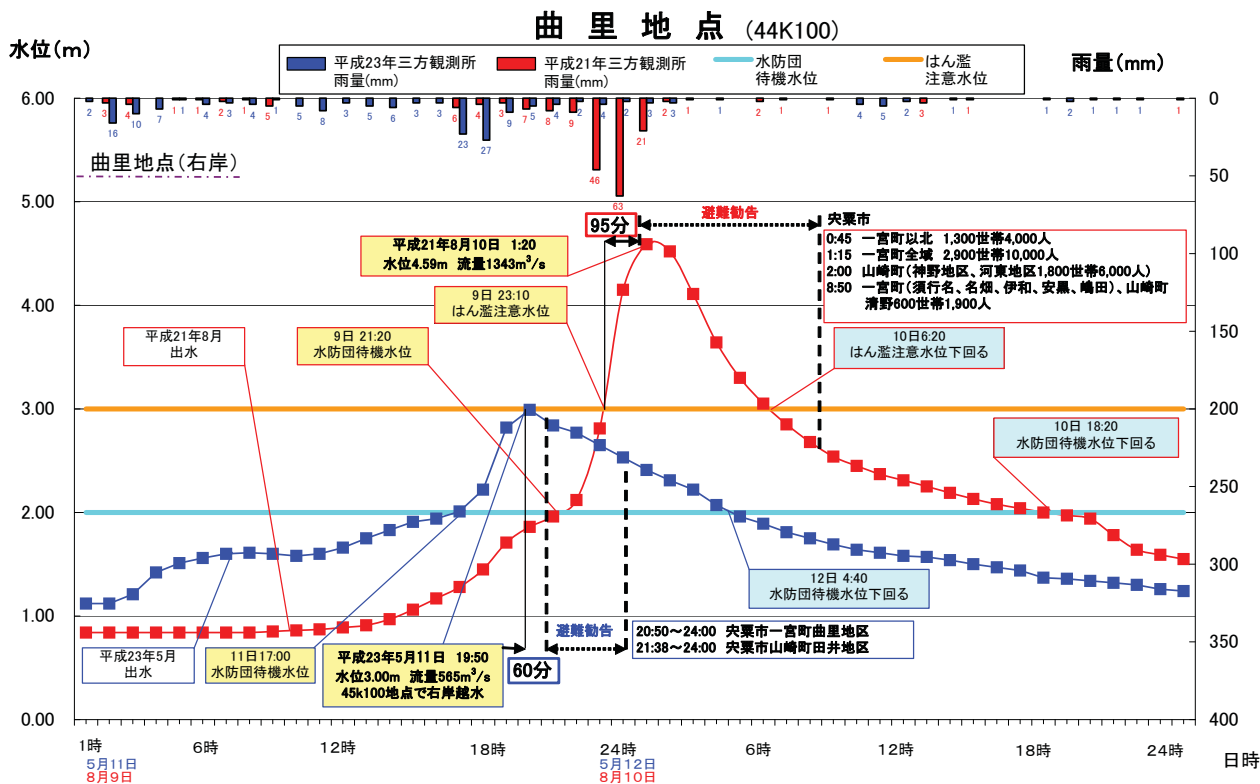
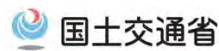
平成23年5月の豪雨における 社会実験の効果検証について

国土交通省 近畿地方整備局
平成23年6月6日



Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

前回 (平成21年8月) と今回 (平成23年5月) の出水比較



今回、社会実験を実施した揖保川の宍粟市一宮町曲里地区において、平成23年5月11日～12日の豪雨により、近隣の曲里水位観測所において、はん濫注意水位を超過。浸水被害が発生した平成21年8月とは異なり、今回の出水では、雨が止み水位が徐々に低下したことから浸水被害は発生しなかった。

当該豪雨に対して、下記の通り社会実験の効果が把握できた。

- ① 市役所では、目安とする水位を超過してから避難勧告発令までの時間がH21出水に比べて短縮

はん濫注意水位を超過してから **95分後(H21) → 60分後(H23)**

- ② 地域住民は、H21災害の記憶やマイ防災マップ作りへの参加などから「**早めの避難**」の意識が高まっており、避難勧告発令前から自主避難開始。また、避難した人の割合も大幅に増加

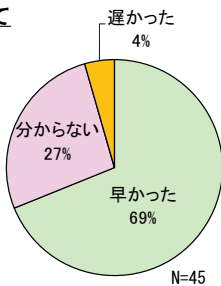
避難割合は、**13.5% (H21) → 22.6% (H23)**
 (2,958人/21,900人) (200人/886人) (宍粟市全域)

※避難割合＝実際に避難した人数/避難対象人口

【住民アンケート】避難行動について (前回(平成21年8月)と今回(平成23年5月)の出水との比較)

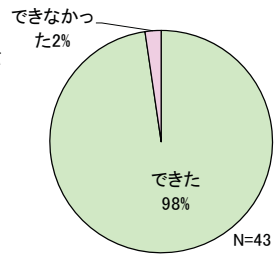
設問：避難に係る時間について

・回答者の約70%が前回よりも避難に係る時間が「早かった」と回答



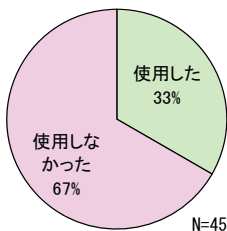
設問：円滑な避難ができたか

・概ね全員が円滑な避難が「できた」と回答



設問：マイ防災マップを避難に使用したか

・回答者の約35%がマイ防災マップを避難に「使用した」と回答



【マイ防災マップを避難に「使用しなかった」理由】

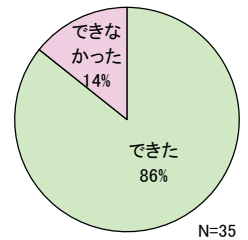
- ・訓練等を通じ日頃から認識している。
- ・避難順路や危険な場所を理解していたから。
- ・急いだけで見の間がなかった。でも、この前の訓練でだいたい把握していたので、スムーズにできた。
- ・避難の呼びかけを行っていたため。
- ・消防活動中だったため。

設問：要援護者の避難は円滑にできたか

・回答者の約85%が要援護者の避難を円滑に「できた」と回答

【避難が円滑に「できなかった」理由】

- ・自宅待機のほうがよいと思った。
- ・家族だけでいっばいだった。

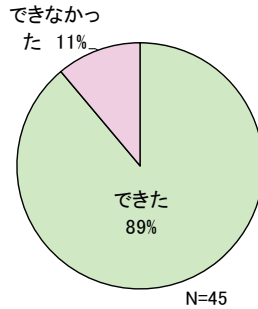


【対象】社会実験のモデル地区で、平成23年5月11日の出水で避難勧告が発令された宍粟市曲里地区(自治会役員、新旧組長、消防団:計45名)

設問:設置した避難の目安線(4箇所)は活用できたか

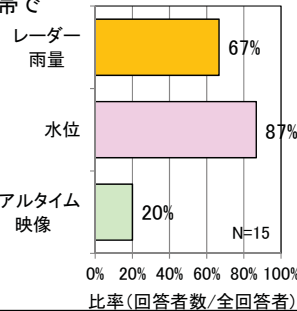
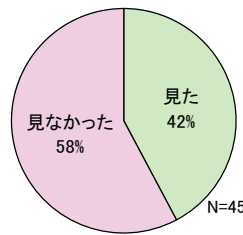
- ・回答者の約90%が避難の目安線が「活用できた」と回答

【避難の目安線が「活用できなかった」理由】
 ・夜だと見えないし、危険なので見に行かなかった。



設問:携帯サイトで河川情報を見たか

- ・回答者の約40%が携帯サイトで河川情報を「見た」と回答
- ・回答者の約85%が携帯で水位を見たと回答



【対象】社会実験のモデル地区で、平成23年5月11日の出水で避難勧告が発令された宍粟市曲里地区(自治会役員、新旧組長、消防団:計45名)

自主避難の目安線について	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に設置した目安線は特に良かった。自分自身で目安線を近いところで確認することができた。 ・安全・安心早め早めにゆっくりとした避難を心がけるためにも目安線は消防団また自治会役員には大いに役立った。 ・役員や消防団の方はたえず見に来ておられ、避難所にて目安線まであとどのくらいですかと聞く人がたくさんいた。 ・日中は自主判断基準ツールとして効果大であるが、夜間は確認できないため照明が必要。
避難情報について	<ul style="list-style-type: none"> ・しそ防災ネットは登録していて役に立った。 ・放送で詳しく言われていたので役立った。
災害時要援護者について	<ul style="list-style-type: none"> ・伊和高校体育館に避難したが、要援護者のトイレに困った。 ・お年寄りや身体の不自由な方は最寄りの一時避難所に避難してもらおう方が良いと思った。
自治会の災害対応等	<ul style="list-style-type: none"> ・昼間の災害は仕事で人員が集まらないことに気がついた。(会社員等の昼間は外で仕事をしている)組長の代わりに家で職を持っている人も何人が役職にしておくことが大事である。 ・自治会役員と消防団との役割分担を明確にすることが必要。 ・公民館にテレビ・ラジオがほしい。 ・市の救援物資の情報になるべく早くほしい。

【対象】社会実験のモデル地区で、平成23年5月11日の出水で避難勧告が発令された宍粟市曲里地区(自治会役員、新旧組長、消防団:計45名)

